



私の3冊

玉井創太

後輩に薦める2冊

蒲澤秀洋（監），阿部順子（編著）

チームで支える高次脳機能障害のある人の地域生活

生活版ジョブコーチ手法を活用する自立支援 中央法規，2017年発行

高次脳機能障害の方が地域で生活していくことを支援するうえで必要な視点や、うまくいかないときの対応が書かれています。生活能力の具体的な判断基準や、支援の仕方が段階的に示されているため、自分のかかわっている方を思い浮かべながら読むと、次に取り組む際のアイディアがもらえます。精神症状が出現したときの配慮事項や対応方法についても記載されています。支援していく際に手元に置いておきたい1冊です。

The Ontario Brain Injury Association（著），中島恵子（監訳）

子どもたちの高次脳機能障害 理解と対応

三輪書店，2010年発行

高次脳機能障害の子どもたちが特別支援教育を利用する際に、支援者が知っておくべき高次脳機能障害特有のニーズについてわかりやすく書かれています。学校生活において生じやすい問題や、対応の仕方などが随所で表にまとめられているため、知りたい内容をすぐに確認できるだけでなく、関係者と共有する際にも役に立ちます。

自分の1冊

J. Graham Beaumont（著），安田一郎（訳）

増補新版 神経心理学入門

青土社，2009年発行

神経心理学の知見を体系的に整理する枠組みを提供してくれる本です。「神経心理学」と名のつく諸分野の違いに関する説明に始まり、神経心理学を学ぶうえで必要なことが網羅されています。また、多くの先行研究を紹介し、その批評も記載されているので、研究結果をどうみるかを学ぶことができました。心理学専攻の学生の教科書として書かれているので読みやすく、参考文献や推薦図書の一覧は次に読む本を探すのに役立っています。

■ たまい・そうた 心理士8年目 横浜市総合リハビリテーションセンター

発達障害の療育、障害者更生相談所の判定業務を経て、現在は高次脳機能障害の臨床に携わっています。対象の多くは成人ですが、小児の方にも対応しています。これまで断片的にしか学んでこなかった神経心理学を、体系的・包括的に学ぶことを心がけるとともに、高次脳機能障害の方が地域で安心して生活できるよう、支援方法が具体的に書かれている本を読んでいます。その際、自分がイメージしやすく、人に伝えるときにも参考になる本を意識して選んでいます。